



2013 セカンドレベル・ミニストリーよりご挨拶

By 理事長 マイケル・レイノルズ



(右下よりの続き)

「堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。」(エペソ 6:13) その武具とは御言葉を含みます(17)。だからこそイエス様も、マタイ 28章 19節において、「行って、弟子をつくりなさい。」と言われたのです。パウロはテモテを弟子として育てるにあたって、この命令を守り通しました。「他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」(第二テモテ 2:2) この教えに従って、セカンドレベル・ミニストリーのビジョンと目的が立てられています。キリストの弟子を育てあげるために、この主の命令に従い通すのは忍耐を要することです。

キリストの弟子とならずには、この世でしっかりと立っていくのは困難です。だからこそ、多くの者が信仰を失っていくのです。私たちは、セカンドレベル・ミニストリーを通して、日本のキリスト教界が、力強く建てられていくことへの希望を抱き、来る年も主に従順にお仕えさせて頂きたいと思っています。

昨年度を振り返り、主がセカンドレベル・ミニストリーに関わる者達を豊かに用い、成長させて下さった事への感謝で満ちています。理事、総主事をはじめ、スタッフ、ボランティアやアドバイザー達の働きが尊く用いられた事について十分には語れません。理事達は、働きの基礎になる指導をもち、ビジョンや目的を整え、予算を扱うことにも時間を使います。スタッフ達は、昨年度もこの働きを通してお仕えする中で、主の豊かな祝福を体験することができました。(働きについては、右の「2012年のハイライト」を参照。人事については、下を参照。)

これまで日本人に対する重荷を抱き、23年間多くの日本人と関わってきた中で、彼らがアメリカ滞在中にキリストへの信仰を告白する機会を見ました。けれども、日本へ帰国するとそのようなことは忘れ去られてしまいます。聖書を開かなくなったり、祈らなくなったり、交わりから離れてしまったりします。そして恵みによって始まった主との関係からも離れてしまうのです。このようなケースは75%にも及ぶと言われています。

もしかすると、周りのクリスチャン達を喜ばせるための信仰告白だった場合もあるかもしれません。もし救われた人たちの半分でも本当に主に人生を委ねた信仰告白だったなら、なぜほとんどの方がそのように交わりを絶ってしまうのでしょうか。日本文化の特質や、社会におけるプレッシャーも一面はあるかもしれません。けれども、神様はハンディキャップを負っていたり社会の弱さに負けるようなお方ではありません。必要はすべて満たして下さるお方です(ピリピ 4:19)。

私たちが察する問題点は、信仰を失い、交わりや神様から離れていく人々は、信仰告白をした後の人生において直面する課題に対して、どのように対処すべきか準備されていないことです。つまり、キリストにコミットした信仰まで達する弟子として成長していないのです。(左上に続く)

2012年度の理事会にて、ジャクソン兄に代わり、ポール・クリス兄が理事への任命されました。アドバイザーから理事への移行となりました。(サイトにてプロフィールをご覧ください。)



ウッド源和香子姉が、新しくスタッフに加えられました。彼女は、失われた日本人の魂の救いと弟子訓練に熱い思いを持たれています。昨年夏、セカンドレベルを通して沖縄へ宣教旅行へ出かけました。協力主事として、主にスカイプにて弟子訓練の学びを提供させて頂いています。

2012年のハイライト

* 教会成長を支援する宣教

沖縄へ教会開拓や聖書の学びのお手伝いのため、宣教師を送る機会がありました。このような形でも、弟子づくりの大切さを今後も伝えていきたいと願います。

* スカイプ・セッション

主に二つのテキストを使い、スカイプによる聖書の学びやメンタリングを定期的に行っています。特に、教会がなかったり、弟子づくりや霊的成長に重きを置いた学びが近くにない場合、スカイプというツールが用いられています。(詳細は、裏面に)

* 新・弟子訓練テキスト

『キリストの弟子として生きる』という8章にわたって、キリストとの関係を深めるテキストができました！(詳細は、裏面に)

* 変えられた人々

弟子訓練に関するセッションを通して、多くの者が信仰による成長をとげ、御言葉に関する知識を増しました。それと同時に、今年は4名の者がセカンドレベルのスタッフを通して救われました。

* 協力団体との関わり

今年も、主の働きに対して同じ重荷を抱く協力団体との関わりを大切にしています。又、新しいネットワークも与えられ、今後も御国の前進のために共に仕えたいと願っています。